

<b>教育目標</b>	
志 きらめく — Art Science Toughness	
人の心を大切にし、多様な学びを通して持続可能な社会の担い手を育成する	
<b>年度末の最終評価</b>	
自己評価	<b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b>
	学習アンケートでの「授業で学んだことが、他のことに生かされている」という生徒の割合が、〔昨年 82.0%⇒今年 85.4%〕と良好な結果が出ており、カリキュラム・マネジメントの視点から進めた授業改善の成果が出ていると思うわれる。一方で、「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている」という生徒の割合が〔昨年 86.9%⇒今年 72.4%〕と下落しており、生徒が将来に希望を抱き、夢や目標に向かって学校生活を送れていない現状が見える。コロナ禍の影響により学校行事の中止、縮小、部活動の停止期間の長期化等、生徒への影響の深刻さを感じている。次年度は、学びに向かう力、人間性の育成に焦点を当て、生徒がより主体的に取り組める教育環境の整備に努めたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策をして工夫しながら進めた教育活動全般について、概ねよく頑張っていると評価していただいた。また、「このコロナの時代は、将来、教科書に載るような時代である。この経験をぜひ力に変えてもらいたい」と激励の意見をいただいた。</li> <li>・ICTの活用を今後も進める必要があるが、教員よりも生徒の方が長けた面があることを自覚して生徒を主体にして実践することが、情報活用能力の育成につながると助言をいただいた。</li> <li>・コロナ禍により地域と生徒の交流の場がなくなっていることを懸念している。生徒は、挨拶は変わらずしてくれるが、感染対策を図りながら地域でも生徒の活躍の場を設けていきたい。</li> </ul>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月20日	学校評価委員会
最終評価	2月25日	学校評価委員会

## (1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

<b>重点目標</b>
資質・能力を育むカリキュラム・デザインの構築
<b>具体的な取組</b>
<p>○教科会活性化による授業改善の工夫</p> <p>学校独自で「クロス持ち」と名付けた授業担当制に取り組んでいる。意図的に複数の学年の授業を担当し、一つの学年の教化授業を複数で受け持つ形態をとっている。この取組により、教科会が活性化し、教員の指導力の向上が図る。</p>

○育成を旨とする資質・能力を明確にした配列表の再作成

校是、学校教育目標の実現に向け、育成を旨とする資質・能力として、主体性・忍耐力・協働力・自己表現力・創造力・論理的思考力・問題解決力の7つに重点をおき、昨年度に引き続きその育成に向けて単元配列表を2種類作成する。昨年度作成したものは、育成を旨とする力のつながりを示す「単元配列表Ⅰ」と学習内容のつながりを示す「単元配列表Ⅱ」であったが、今年度はこれらを発展させた新しい単元配列表を作成する。各教科で身につけた力を総合的な学習の時間の各種取組につなげ、生徒の学びや成長にどのようにつながるのかをまとめることで、資質・能力育成の「見える化」を図り、カリキュラム・マネジメントが機能する授業づくりを学校全体で進める。

○「資質・能力を育むための、教科の本質を踏まえた主体的・対話的で深い学びの授業実践」の確立  
・「対話的活動」「振り返り」のアウトプットの活動を重視し、学びを深める授業改善を推進し、授業デザインの確立を図る。

・授業導入における意欲や関心を高める〈つかむ〉、展開の意見交流〈交わる〉、終末の振り返り〈振り返る〉の流れ〈つかむ〉→〈交わる〉→〈振り返る〉を確立させる。

○GIGA端末の効果的な利用

GIGAスクール構想を実現すべく、1人1台の端末を始め、様々なICT機器を効果的に活用し、GIGAスクール推進主任・研究主任・情報教育主任が連携しながら、各教科等でのMicrosoft 365やロイロノートの活用を横断的に推進することで生徒の資質・能力育成をより確かなものとする。

また、総合的な学習の時間や特別活動の時間にZoom等の活用によって外部講師へのオンラインインタビューを実施したり、日頃の家庭学習や休業中にデジタル教科書やデジタルドリルを利用させたりすることで、コロナ禍における「学びを止めない教育活動」にもつなげていく。その際、蓄積されたデジタル教科書やデジタルドリルの個人カルテ分析を行うことで個別最適化した学びの提供を目指す。

○教科授業の改善と学力分析

- ・京都市小中一貫学習支援プログラム等を活用し小中一貫した学力分析と対策の共有化を図る。
- ・見通しをもった生活設計と自己管理能力を育成するための「きらめき手帳」の活用の徹底を図る。
- ・自ら課題に気づき主体的に学ぶ意欲や態度を育むため、毎日の家庭学習課題を充実させる。
- ・キャリア教育の視点をもって、一貫性がありつながりのある学習面と生活面の指導を行う。

○LD等支援が必要な生徒の学力向上

- ・通級教室による学習支援と「学充（テスト前学充・土曜学充）の時間」の充実を図る。
- ・個別の指導計画の教職員の共有化と、生徒一人一人の学習の躓きの把握と丁寧な対応を行う。
- ・個に応じた課題解決のためのICT（タブレット）を効果的に活用する。

○言語活動と探究的な活動の充実

- ・教科等における言語活動の充実を図り、図書館（マルチメディアルーム）を積極的に活用する。
- ・総合的な学習の時間等において、討論活動やポスター・論文作成を通して言語活動の充実を図る
- ・朝読書やビブリオバトル等を活用し読書活動を推進する。

○外部刺激による研究・実践の充実

- ・大学教授を講師に招き、パフォーマンス課題・評価等の先端の教育実践の研修を実施する。
- ・先進校の取組事例に学び、互いに切磋琢磨する教職員集団を形成する。
- ・情報交換の場の設定や視察受け入れ、地域の人材・学生等との協働により組織の活性化を図る。
- ・学校運営協議会や保護者等の学校評価を活用した年度途中の自己検証機会を設定する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「授業は、自分の意見を発表したり、友達のことを聞いたりして考えを深める場面がある」「授業は、学習内容を振り返ったり、まとめたりする場面がある」「授業の中で『分かった』『できた』と感じる場面がある」「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている。」(生徒学習アンケート)
- ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができている」「家庭学習の習慣の確立ができている」(教職員評価)
- ・「子どもは真面目に授業に取り組んでいる」「子どもは授業が分かりやすいと感じている」「子どもは宿題を家庭で行っている」(保護者アンケート)

中間評価

各種指標結果

- ・「授業は、自分の意見を発表したり、友達のことを聞いたりして考えを深める場面がある」 97%
- ・「授業は、学習内容を振り返ったり、まとめたりする場面がある」 96%
- ・「授業の中で『わかった』『できた』と感じる場面がある」 93%
- ・「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている。」 72%
- ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」 79%
- ・「思考ツール等を活用した学びを深める授業づくりができている」 50%
- ・「家庭学習の習慣の確立ができている」 56%
- ・「子どもは真面目に授業に取り組んでいる」 87%
- ・「子どもは授業が分かりやすいと感じている」 77%
- ・「子どもは宿題を家庭で行っている」 84%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・クロス持ちの授業形態により、教科会は円滑に運営されているが、一部の教職員に負担が偏りボトムアップ型の授業改善には至っていない。
- ・各教科において育成をみざす資質・能力を明確にした配列表が再作成され、学校教育目標の実現にむけた7つの力の習得について教科ごとの重点的に取り組む力を明確にすることができた。
- ・資質・能力を育むために、昨年度の研究を活かした「対話的活動」「振り返り」のアウトプットの活動を重視し深い学びを確立させる授業デザインが進み、分かりやすい授業が実践できている。
- ・各教科で身につけた資質・能力を活かした総合的な学習の時間での探究学習の実践が進んでいる。コロナ禍により縦割りグループでの取組は変更され学級単位での取り組むことになったが、生徒は意欲的に取り組んでいる。
- ・GIGA 端末を効果的に活用した教科授業が増え、個別最適な学びの実践が進んでいる。
- ・家庭学習として宿題に取り組む姿勢はある程度は定着しているが、自ら課題を見つけ、主体的にその解決のために取り組む態度は十分ではない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・教科会の中身を充実させ、授業デザインについてしっかり議論し、特定の教職員の手法にこだわることなく、柔軟に相互の意見を取り入れる体制づくりを行う。
- ・GIGA 端末や採点補助ソフト等の ICT を効果的に活用し、個々の生徒の状況を適確に把握した個別化最適化した学びを目指した授業改善を進める。また、不登校対策、今後の臨時休校対策等として、双方向の授業ができる環境を整備する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課せられた家庭学習課題については大多数の生徒ができているが、見通しをもち、次の学習につながる主体的に学びに向かう力を育成するために、「きらめき手帳」の効果的な活用と、授業の振り返りの実践を組織的に進める。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の中で『分かった』『できた』と感じる場面がある」「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている。」「学ぶことに興味や関心を持ち、自分の学習状況をふり返ったり、粘り強く取り組んだりしている」「学んだ知識を関連付けて、自分の理解や考えを深めたり、創造したりできている。」(生徒学習アンケート)</li> <li>・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」「ICT 機器を活用した授業づくりができている」「家庭学習の習慣の確立ができている」(教職員評価)</li> <li>・「子どもは真面目に授業に取り組んでいる」「子どもは授業が分かりやすいと感じている」「子どもは宿題を家庭で行っている」(保護者アンケート)</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGA 端末等を活用したデジタル化に対応した取り組みは、今後も続けてもらいたい。但し、家庭のw i f i環境等により、格差が生まれないように配慮してもらいたい。</li> <li>・コロナの影響もあり、不登校の生徒が増えているように思うが、中学校の卒業がゴールではなく、長いスパンでじっくり成長を支える取組を進めてもらいたい。</li> <li>・学年の差もなく、生徒は落ち着いて学習することがよくできている。</li> <li>・家庭学習への取り組み等について、保護者アンケートを参考にして、より現状についての理解を進める必要がある。</li> <li>・生徒がより活発に活動できる機会を設けてほしい。</li> </ul>

## 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の中で『わかった』『できた』と感じる場面がある。」 92%</li> <li>・「将来の夢や目指す目標に向かって、勉強することができている。」 72%</li> <li>・「授業で学んだことが、他のことにも生かされている」 85%</li> <li>・「学ぶことに興味や関心を持ち、自分の学習状況をふり返ったり、粘り強く取り組んだりしている」 80%</li> <li>・子どもは真面目に授業に取り組んでいる」 91%</li> <li>・「子どもは授業が分かりやすいと感じている」 74%</li> <li>・「子どもは宿題を家庭で行っている」 90%</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「資質・能力を育むカリキュラム・デザインの構築～学びを深める授業づくりを通じた“クロス”の充実」をテーマに授業改善の研究を行うことによって、教科横断的に、また生徒のメタ認知を働かせながら資質・能力を育む授業改善を進めることができた。特に今年度は、メタ認知を働かせるツールとして「学びの地図」を作成し、取り組めたことは大きな成果である。</li> <li>・教育目標達成のために校内で設定した7つの力を、教科ごとの具体的なものに落とし込み、生徒の自己評価、定期テスト、学習確認プログラムをもとに、力の育成の状況を分析した。</li> <li>・GIGA スクールの推進については、日常の授業の中で GIGA 端末が頻繁に使用され、文房具の一つのように生徒は使い慣れ始めている。また、週末には端末を家に待ち帰らせ、感染により学級閉鎖等へも円滑に対応し、学びを止めない体制づくりを進めることができた。</li> </ul>

	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間、校内研究において3つのカリキュラム・マネジメント『①単元デザイン・授業デザイン②コンテンツ・ベース③コンピテンシー・ベース』に取り組み、今年度はコンピテンシー（資質・能力）・ベースによりカリキュラム・マネジメントに重点を置いた。教職員の理解も十分進み、総合的な学習を核にした教科横断的に資質・能力を育成する体制の構築を進めることができた。ただ、学習評価については、教職員の理解に温度差があり、指導と評価の一体化の面で課題が残った。次年度、共通理解を図り、より効果的な評価法について研究を進めたい。</li> <li>・GIGA 端末の活用を進め、活用頻度は大きく上昇したが、効果的な活用という面では、改善の余地がある。優れた実践をしている教職員をリーダーにして、全体のスキルアップを図りたい。</li> <li>・家庭学習についての課題が解決できずにいたが、年度末に改善策について議論することができた。次年度は個別最適化を図り、一律一斉の学習課題を見直し、効果的な家庭学習を計画する。</li> </ul>
<p>学校関係者評価</p>	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、GIGA 端末を活用し感染予防を図りながら工夫した授業づくりが行えている。端末の活用をするのも大切だが、生徒が直接意見を交わすことが疎かにならないように流して活動してもらいたい。</li> <li>・GIGA 端末をただ使うのではなく、「書き込める」「消せる」「時間短縮」等 ICT の長所を活かした授業を進めてもらいたい。</li> <li>・感染による学級閉鎖の時に、オンラインで授業が配信され、入試への不安を軽減することができ、保護者として安心できた。</li> </ul>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <p>充実した道徳教育や支え合い高め合える集団づくりを通して、豊かな心を育む教育活動を推進する</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <p>○支え合い互いに高め合える集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>人権教育を基盤とした人間関係づくりを通して、多様性を理解し寛容な態度を涵養する。</u></li> <li>・<u>人の心を大切にし、他を思いやる心を育成するための、道徳の時間や人権学習を中心とした教育活動を充実させる。</u></li> <li>・<u>生徒会活動の活性化と学年・学級活動や部活動等における心の居場所となる集団づくりを行う。</u></li> <li>・<u>不登校傾向の生徒の居場所づくりを目指した別室（通称：マイプレ）を効果的に活用する。</u></li> <li>・<u>新たな不登校を生まない集団づくりを意識的に行い、生活背景に迫った生徒理解に努める。</u></li> </ul> <p>○規範意識の醸成と自律の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と家庭との連携により法やルール的重要性を自覚させ、規範意識を育成することによって、「守られているもの」という意識ではなく、自ら行動できる態度を育てる。</li> <li>・<u>人権侵害やいじめ・性被害等のSNSトラブルを未然に防止するネット利用のルールづくりを徹底する。</u></li> <li>・家族や仲間等、周囲の人への感謝する心、公共心や公德心を育成する。</li> </ul> <p>○社会の一員としての自覚や社会のために尽くす精神の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>持続可能な社会の担い手を目指し、7つの力（主体性・忍耐力・協働力・自己表現力・論理的思考力・問題解決力・創造力）を培い、社会づくりに貢献できる人材を育成する。</u></li> <li>・清掃活動等を通して、公共心や公德心を培い、社会の一員としての自覚を高め、自己の生き方に</li> </ul>

ついて考える機会を意図的・計画的に設ける。

○安全な環境整備と心の健康を意識した教育活動の推進

- ・考え議論する授業，認め励ます評価によって道徳の授業を活性化させる。
- ・地域の人材を活用し茶道体験や和食調理体験，ゆかた登校などの伝統文化や地域の伝統産業を体験し，「ほんもの」に触れる学習を行うとともに，自らも伝統と文化の担い手であることを実感できる取組を充実させ，豊かな感性を醸成する。

○いじめ防止，不登校対策の強化，共生社会の構築

- ・「報・連・相」の徹底と「学校いじめ防止基本方針」に即し，「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を学校組織として適切に行う。
- ・いじめアンケートやクラスマネジメントシートを活用した，いじめの予防と早期発見に向けて取組を組織的に実践する。
- ・いじめ対策委員会・不登校対策委員会を活用し，ＳＣや関係機関と連携した細やかな対応を行う。
- ・学校運営協議会を活用した「社会に開かれた教育課程」による，地域活動に主体的に参画し，社会貢献する意識と行動できる態度を育成する。
- ・よりよい社会や生活，人間関係を構築するとともに，手話や点字，ユニバーサルデザイン等の学習を通じ，障害理解や互いを尊重し違いを認め合い共に成長し合える態度を育てる。
- ・生きる喜びや命を大切にし，充実した学校生活を送ることができる学校体制づくりを行う

**（取組結果を検証する）各種指標**

- ・「自分には良いところがあると思っている」「夢や目標をもって生活できている」「自分の気持ちを理解してくれる友達がいる」（生徒アンケート）
- ・「他者（多様生）を認め，思いやる指導・自分を大切にし，自己肯定感を高める指導・生徒の心に寄り添い，いじめを見逃さない指導ができている」「ルールを守る態度の育成ができている」（教職員評価）
- ・「子どもは，自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができている」（保護者アンケート）

中間評価

**各種指標結果**

- ・「自分には良いところがあると思っている」73%
- ・「夢や目標をもって生活できている」70%
- ・「自分の気持ちを理解してくれる友達がいる」94%
- ・「他者（多様生）を認め，思いやる指導ができている」95%
- ・「自分を大切にし，自己肯定感を高める指導ができている」89%
- ・「生徒の心に寄り添い，いじめを見逃さない指導ができている」91%
- ・「ルールを守る態度の育成ができている」96%
- ・「子どもは，自分を大切にした行動ができている」93%
- ・「子どもは，仲間を大切にした行動ができている」91%

自己評価

**分析（成果と課題）**

- ・コロナ禍ではあるが，前向きに自分のことを肯定的に捉えることができる生徒が増えている。一方で自分の思いを人に伝えることを苦手とする生徒も増えている。ソーシャル・ディスタンス，マスク着用の影響からか，友人関係に不安を抱える生徒への対応が課題である。
- ・規範意識については，課題は少なくルールや校則に沿った健全な生活が維持できている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自傷行為をする生徒が明らかに増加している。理由は様々であるが、引き続き命を大切にする教育を進めていくとともに、生徒の心に寄り添い、思いや考えを引き出す相談活動を丁寧に進める必要がある。</li> <li>・生徒指導三機能のチェックリストを活用し、不登校を生まないための取組を始めているが、十分な成果は出ていない。</li> <li>・ネットの不適切な使用により、トラブルが依然起きており、情報モラルの指導がより重要になっている。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを正しく伝え、相手の考えをしっかりと聞く、コミュニケーション能力の育成の強化するにあたり、音声言語にこだわらず、GIGA 端末等を有効に活用した文字言語での意思伝達についての体制づくりを進める必要がある。</li> <li>・規範意識の醸成にあたり、指示されて通りにルールを守るだけでなく、なぜそのルールのあるのかをしっかりと考え、自覚的に正しく行動できる指導を実践していく。</li> <li>・リストカットやオーバードーズ等の自傷行為、希死念慮についての研修を行い、自殺予防に繋げる指導を進めているが、保護者への啓発活動も同時に進めていく。</li> <li>・不登校を新たに生まないために、生徒指導三機能チェックリストを効果的に活用するとともに、くらすマネジメントシートの結果ともクロスさせて、有効な手段を構築する。</li> <li>・民間通信会社と連携し、SNS を正しく利用させるための情報モラル教育を実施しているが、最新のトラブルの状況を教職員が研修し、情報活用能力の育成につなげる必要がある。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分には良いところがあると思っている」「夢や目標をもって生活できている」「自分の気持ちを理解してくれる友達がいる」「思ったことをきちんと人に伝えられている」</li> <li>・「他者（多様生）を認め、思いやる指導・自分を大切にし、自己肯定感を高める指導・生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができている」「ルールを守る態度の育成ができている」</li> <li>・「子どもは、自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができている」</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者からのアンケートの回答方法「あてはまる」が分かりにくいと感じる。回答方法を改善するとともに、前年度からの変化の分析を進めていく必要がある。</li> <li>・コロナの影響により、人との関係づくりが十分にできていない。感染対策のために、学校行事等に制限は続くが、集団の中で仲間の思いを感じたり、自分の考えを円滑に伝える経験をさせてやってほしい。</li> <li>・SNS での誹謗中傷問題等、ネットに関する課題は、社会的にも大きな問題である。保護者への啓発を進め、大人がしっかりと見本となり、トラブルの未然防止に努めたい。</li> </ul>

最終評価

<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体性（自ら取り組む姿勢）を見つけている」79%</li> <li>・「忍耐力（見通しをもって最後までやり抜く力）を身につけている」79%</li> <li>・「協働力（仲間と意見を交流し、考えを広げ深める力）を身につけている」86%</li> <li>・「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」88%</li> <li>・「子どもは、自分を大切にした行動ができている」94%</li> <li>・「子どもは仲間を大切にした行動ができている」97%</li> </ul>
---

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による学校行事の中止・縮小や部活動の長期停止の影響からか、集団づくりが十分に行えず、自傷行為や人を傷つける発言・いじめ問題があった。学校教育目標として「人の心を大切にする」を掲げているが、生徒のストレスをコントロールし、人権学習をはじめとする相手を思いやる態度や心優しい行動ができる取組を行う必要がある。</li> <li>・不登校の課題解決のための「マイ・プレイス」と名付けた別室では、常時2～4名の生徒が登校し、居場所を感じる場を提供することができた。この別室に登校する生徒どうしにつながりが生まれ、卒業式（2部）と一緒に参加することができ、居場所づくりとして機能していることが明らかになった。次年度も各学年とも十名近いの生徒が不登校状態となっているため、この別室の活用だけでなく、GIGA 端末も効果的に活用し、学習支援とつながりの継続に役立てていきたい。</li> <li>・ケータイ・スマホ等のSNSトラブルの数は多くはなかったが、SNS を介して遠方まで家出する等の事案が発生した。また、学校が把握できていないトラブルもあると思われる。情報モラルについて、引き続き系統だった指導が必要である。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、人間関係の希薄化が進まぬように、魅力ある学校づくりの必要性を実感している。「分かる・できた」と生徒が感じる授業づくりの中で、仲間がいるからこそできる学びを充実させる必要がある。コロナ以前に戻るのではなく、目的意識をもって集団での学びの機会を設けていきたい。</li> <li>・自傷行為が増加しており、生徒のメンタルヘルスについて、教職員の研修を充実させるとともに、保護者への啓発活動も同時に進めていく必要がある。</li> <li>・不登校への取組である「マイ・プレイス」については、一定の成果を上げることができているが、新たな不登校を生まないために、生徒が居場所を感じる学校づくりに取り組む必要がある。生徒指導三機能チェックリストを活用した実践や相談活動の充実させる予定である。</li> <li>・本校が抱える地域の人権課題について教職員が常にアンテナを張り続け、社会の不条理な出来事や人権侵害の課題等、当事者意識をもった人権教育を続ける必要がある。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや不登校の課題解決のために、生徒の居場所づくり推進することは共感できる。保護司の立場から犯罪少年に接していても、居場所がないことが起因しているケースが多い。学校が生徒にとって居心地のいい場所となるよう工夫してもらいたい。</li> <li>・地域との関係が希薄になる中で、挨拶をしっかりとできる生徒が多い。地域とのつながりを保つために、今後も挨拶のできるコミュニケーションの力をしっかりとつけるさせてほしい。</li> <li>・コロナ禍により社会の分断が危惧されているが、ヤングケアラーの生徒や、貧困家庭の生徒へのケアには、十分気をつけて取り組んでほしい。</li> </ul>

### （3）「健やかな体」の育成に向けて

<b>重点目標</b>	<p>自他を大切にし、社会との関わりの中で、健全な心身の成長につなげる指導の充実と環境の整備</p>
<b>具体的な取組</b>	<p>○望ましい生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康を保持し規則正しい生活の習慣を確立するため、睡眠の重要性の啓発と、飲酒・喫煙・薬物</li> </ul>

乱用の有害性について正しい知識と危険な行為から身を守る指導を徹底する。

- ・新たな感染症をはじめとする病気やけがに対して、その原因と予防策を正しく理解し、リスクを自ら判断して行動ができる実践的態度を育成する。
- ・性について、正しい知識と適切な行動に関する指導を人権学習とクロスさせながら充実させる。
- ・家庭と連携・協働しネット依存による学習や睡眠時間への影響の啓発と、使用時間の制限等のルールづくりとそのルールを守る態度を育成する。
- ・運動やスポーツに親しみ、健康を大切にする態度を育てる。

#### ○道徳教育の充実

- ・他者への思いやり等の道徳的価値を理解し、主体的に判断し適切に行動できる態度と、集団として高め合える態度を育成する。
- ・道徳教育推進教師を中心とした、教育活動全般において道徳教育を推進する。

#### ○自己指導能力の育成

- ・生徒が自分や自分たちで考えて決めて実行する“自己決定の場を与える”を意識的に設ける。
- ・生徒一人一人をかけがえのない存在として捉え、他者のとの比較ではなく生徒の個性や独自性を大切に“自己存在感を与える”関わりを意識的に行う。
- ・教職員と生徒、生徒と生徒が互いに尊重し、理解し合える“共感的な人間関係を育成する”。
- ・集団の一員として協力する態度、ルールや法の重要性を理解して自ら行動できる態度を育成する

#### ○保健体育の授業及び部活動の充実

- ・保健体育授業の時間確保と運動環境を整備する
- ・部活動時間のあり方を見直し、適切な活動時間と家庭・地域で過ごす時間を確保し、心身の健康を増進し、自尊感情を高めることができる充実した時間となるように取り組む。

#### ○学習環境の充実

- ・保健室、SC室等の心理的な“空間”の整備と、“空間”を効果的に活用した心理的変化の早期発見の場となる運営を行う。
- ・不登校傾向の生徒の心の居場所となる別室指導の体制を充実させ、心の成長とコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・施設などの安全点検と迅速な修理修繕による安全整備を実施する。

#### ○安全教育の充実

- ・危機管理マニュアルに基づいて、研修や訓練を行い、家庭との共通理解を図る。
- ・生徒自身が学校や地域での危険を予測し、災害発生時に適切に行動できる学習を充実させる。

#### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・「朝、起きにくくぼーっとしている」「あまり食欲がわからない」「訳もなく、腹が立ってくることや、悲しくなったりさびしくなったりすることがある」(生徒アンケート)
- ・「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができています」「規則正しい生活習慣の確立ができています」(教職員評価)
- ・「子どもはルールや決まり事を守ることができています」(保護者アンケート)

#### 中間評価

##### 各種指標結果

- ・「朝食を毎日食べている」 91%
- ・「毎日よく眠れている」 80%
- ・「訳もなく腹が立ってくるすることがある」 19%

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができています」 91%</li> <li>・「規則正しい生活の習慣の確立ができています」 81%</li> <li>・「子どもはルールや決まり事を守ることができています」 96%</li> </ul>
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣について概ね良好であるが、心の不調を訴える生徒は多くいる。</li> <li>・感染症に対する理解を深め、マスク着用、黙食等の感染対策を徹底することができた。</li> <li>・ルールを逸脱した行為は少ないが、友人関係を上手く構築できないことがきっかけとなり、不登校の状態になる生徒がいる。</li> <li>・不登校の生徒が2年・3年で増え続け、別室等での対応等を進めているが、授業のオンライン配信等の学びの機会を確保するための体制づくりが必要である。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育についての教職員理解を深めるとともに、保護者啓発を充実させ、栄養バランスに配慮した食事の実現に取り組んでいく。</li> <li>・部活動や休憩時間での感染拡大に不安はあるが、気を緩めることなく感染対策の徹底を継続するとともに、ウィズ・コロナの生活を習慣化させる。</li> <li>・心の不調をできる限り素早くキャッチし、適切な指導につなげるために、朝学活時の健康チェックの時間を有効に活用する等、効率的に心と体の健康状態の把握に努める。</li> <li>・別室に登校する生徒についても、心の居場所づくりに重点をおき、学習面の支援だけでなく、コミュニケーションの機会のある場として取組を継続していく。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝食を毎日食べている」「毎日よく眠れている」「訳もなく腹が立ってくることもある」</li> <li>・「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができています」「規則正しい生活習慣の確立ができています」「子どもはルールや決まり事を守ることができています」</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学において交通マナーを守れていない生徒がいる。安全教育をより徹底し、交通事故の防止に努めてもらいたい。また、徒歩通学の意義についても浸透を図ってもらいたい。</li> <li>・不登校生徒を対象にした別室の取組等をしっかり行ってもらっている。ICTも活用して、これまでの学校教育にとらわれない実践をしてもらいたい。</li> <li>・コロナ禍の影響により地域行事はほぼ中止になっているが、地域での挨拶の励行や、家庭や地域が子供を見守る姿勢を持ち続け、健全育成に向けて学校と連携することの大切さを再確認しなければならない。</li> </ul>

最終評価

	<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家の人は自分のことを理解してくれている」 82%</li> <li>・「家庭では子どもの表情や生活を確認し、会話ができています」 92%</li> <li>・「子どもは礼儀正しい行動ができています」 92%</li> <li>・「子どもはルールや決まり事を守ることができています」 91%</li> </ul>
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の一環として、昼の校内放送を利用した食について啓発活動を進め、感染予防のための昼食時の黙食の時間を効果的に活用した。</li> <li>・コロナ禍の第6波により校内でも多くの感染者が出たが、日常的な感染予防対策により、校内</li> </ul>

	<p>で感染が広がることはほとんどなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防のための部活動長期停止等が影響し、ケガをする生徒は多く、体力の低下により持久走後に体調に異変を起こす事案も複数発生した。日頃からの運動の習慣を課題として感じた。</li> <li>・コロナ感染をした生徒の中には、治癒後も体力が戻らず欠席が増える生徒がいた。後遺症についての教職員の研修の必要性を感じた。</li> <li>・学年末に薬物乱用防止や性教育についての啓発学習を行ったが、外部講師等を活用しながら、適切な指導を継続する必要がある。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策については、引き続きしっかり行う必要があるが、感染対策に沿った生活習慣はすでに確立できている。感染拡大を防ぐための登校自粛の対応が、不登校につながることはないように、十分に注意する必要がある。</li> <li>・心の不調を訴える生徒や不登校の課題解決のために、GIGA 端末等を効果的に活用し、相談ツールとしても活用し、心のケアができる体制を構築する。</li> <li>・青少年の大麻使用による課題は依然残っていることを重く受けとめ、薬物乱用防止について、教職員研修や家庭啓発を行い、現状を正しく知る必要がある。また、自傷行為や希死念慮についても、当事者意識を持って研修、指導を行う予定である。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止の対策のための換気をしながらの防暑・防寒の対策として、服装の決まりに幅を持たせ柔軟に対応している。</li> <li>・働き方改革の一環として部活動についての見直しが進んでいる。中学生になると、これまで参加していた地域行事等に部活動を理由に参加しなくなることがある。今回の見直しを機会に、地域行事等に積極的に参加できる状態になることを希望している。部活動は、長時間活動することや、大会で結果を残すことに意味はない。生徒の多様な活動の機会を保障し、集中して取り組むこと部活動であってほしい。</li> </ul>

#### (4) 学校独自の取組

<p><b>重点目標</b></p> <p>キャリア教育の推進を視点に学校行事運営や生活指導等のマネジメントを進める</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>道徳の時間において、22 項目のそれぞれがキャリア教育の基礎的・汎用的能力のいずれに当てはまるのかを明確にした実践</u></li> <li>○<u>総合的な学習の時間において、「人権学習」「生き方学習」「伝統文化体験学習」「探究学習」の4つの分野のそれぞれでキャリア教育の視点を持ち、自己の生き方を考える取組の実践</u></li> <li>○キャリア教育の視点に立って特別活動・生徒会活動の実践</li> <li>○地域人材を活かし、浴衣登校や和食調理体験等の伝統文化体験を充実させ、自分たちの住む町の次代の担い手としての自覚を醸成する。</li> <li>○キャリア・プランニング能力の育成を目指した計画手帳（きらめき手帳）の指導を充実させ、主体的に時間を設計し、見通しを持ち、自ら調整しながら計画的な生活を営む力を育成する。</li> </ul>
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で学んだことが他のことにも生かされている」「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」(生徒アンケート)</li> </ul>

- ・「探究学習を充実させた指導・伝統文化体験学習を充実させた指導ができています」（教職員評価）
- ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできています」「子どもは手帳を活用し計画的な生活ができています」（保護者アンケート）

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・「授業で学んだことが、他の学習に活用できている」 87%
- ・「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができています」 72%
- ・「探究学習を充実させた指導ができています」 84%
- ・「伝統文化体験学習を充実させた指導ができています」 57%
- ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできています」 74%
- ・「子どもは手帳を活用し計画的な生活ができています」 64%

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・道徳の時間において、持ち回り形式等を組み入れながら学年全教員で取り組み、教員の個性を生かしながら、認め励ます評価を適切に組込んだ22項目の実践を行えている。
- ・学校教育目標達成に向けて、総合的な学習の時間の「人権学習」を Human Time、「生き方学習」を Toughness Time、「伝統文化体験学習」を Art Time、「探究学習」を Science Time として、4分野において育成を目指す力（論理的思考力・自己表現力・問題解決力・創造力）の習得に向けて取り組んだ。特に探究学習においては、職業をテーマに生徒が主体的に取り組むことを大切に、充実した活動ができています。
- ・本校の伝統である浴衣登校では、例年は地域女性会の協力のもとに着付け指導を行ってきたが、コロナ禍により生徒が「自分一人で浴衣を着る」を目標に、GIGA 端末等を活用しながら工夫して取り組み、伝統文化に対する学習を継続させることができた。
- ・独自のきらめき手帳の活用を通じた、キャリア・プランニング能力を育成する取組に対して、教職員の意識が形骸化している面が見られた。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・道徳の授業については、地道ではあるがしっかりとした実践が行えている。しかし、授業参観等が中止になり保護者への啓発ができておらず、通信・HP等を効果的に活用する必要がある。
- ・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、総合的な学習の時間を核として、教科で身につけた力が活用される探究学習をより充実させる。外部人材を活用し、学習の高度化を進めていく。また、探究学習の中間発表であるポスター発表会に、学校運営協議会理事や、はぐくみネットワークの役員の方に参加してもらい、世代を超えた意見交流の場を設ける。
- ・手帳の利用の指導において、再度、教職員に共通理解を図る必要がある。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・「授業で学んだことが他のことにも生かされている」「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」
- ・「探究学習を充実させた指導・伝統文化体験学習を充実させた指導ができています」
- ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできています」「子どもは手帳を活用し計画的な生活ができています」

学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浴衣登校において、地域の協力ができない中、「自分一人を着る」を目標に取組を継続できたことは、とても意味のあることである。この経験を他の活動にも生かしていくべきである。</li> <li>・コロナ禍の中、多くの体験学習が変更・中止になることはやむを得ないが、生徒の学校に対する魅力を失うことがないよう学習活動を工夫して実施してもらいたい。</li> </ul>
---------	--

最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で学んだことが他のことにも生かされている」 85%</li> <li>・「将来の夢や目ざす目的に向かって勉強することができている」 72%</li> <li>・「総合的な学習の時間の探究活動に意欲的に参加できている」 92%</li> <li>・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」 85%</li> <li>・「子どもと進路(将来)の話をよくしている」 75%</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントの研究に取り組んだ成果として、教科で身につけた資質・能力を総合的な学習の時間で活用する取組を行うことができた。特に総合的な学習の時間での探究活動において、教科授業とつなげて知識・技能を活用するとともに、身につけた資質・能力を活かし生徒が主体的に取り組む活動となった。</li> <li>・職業をテーマにした探究学習(ASTタイム)に総合的な学習で取り組むことができた。外部機関とも連携し、京都大学総合博物館准教授の塩瀬氏、株式会社MIYAKOの仲田氏、タイのコンケン大学講師の高橋氏等の協力のもと、探究にふさわしい問いの立て方の指導や、生徒の質問への回答をいただき、充実した探究活動を進めることができた。</li> <li>・道徳の時間について、持回り授業等を取り入れたりしながら、工夫した活動を行い、22項目についてはしっかり取り組むことができた。</li> <li>・コロナ禍により、本校独自の行事である浴衣登校等の総合的な学習においての地域との連携した取組はできなかったが、GIGA端末等を活用し、生徒同士が教え合いながら、浴衣の着付けを習得し、例年とは違った充実感のある活動となった。</li> <li>・2年生の生き方探究チャレンジ体験は中止となったが、1年生の仕事場訪問は、27の事業所にご協力いただき実施することができた。事業所の皆様より、勤労観、職業観の醸成につながるお話をいただき、有意義なインタビュー活動となった。また、3年生対象に「いのちのプロジェクト」を開催し、京都出身のバイオリニストのeRika氏を講師に招き、演奏と講演をしていただき、生徒が今後の生き方を考えると貴重な機会となった。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の探究活動において、昨年度に実施した縦割りでの活動は感染拡大防止のために変更し、学級単位での活動となった。活動自体は概ね順調であったが、異学年の関りは十分ではなかった。また、成果発表のポスター発表において、PCを用いた発表形式に変更したために、作業はスムーズに進んだが、質疑において生徒の反応が薄く課題が残った。紙ベースでの発表の利点を整理し、次年度のポスター発表に生かしていきたい。</li> <li>・総合的な学習の整理を進めるとともに、特別活動と連動させながら生徒が主体的に学びに取り組み、協働的に学ぶ体制づくりを継続して行う必要がある。</li> <li>・道徳の時間の評価については、教職員の理解も進み、滞りなく適切な評価が実施できた。評価</li> </ul>

	を活用しながら、家庭と連携した道德教育をより効果的に進めたい。
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業をテーマに全校で取り組んだ探究学習のポスターセッションに参加したが、生徒が意欲的に活動している様子がよく伝わった。ただ、発表のスキルについては課題があるように感じた。今回、生徒自身が興味・関心のある職業を選択し、自主性を大切にされた探究学習が進められていたことは、必ず将来に役立つと思われる。</li> <li>・コロナ禍により、地域との連携が厳しい中、PCや外部人材を有効に活用し、学校として様々な工夫を凝らして別の形態で取り組めたことは良かった。日常の教科の授業だけでなく、学校の特色を生かした学校行事も織り交ぜながら、多様な教育活動を進めることが大切である。</li> </ul>

### (5) 教職員の働き方改革について

<b>重点目標</b>	時間外勤務時間の削減と業務の効率化・適正化の推進
<b>具体的な取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務時間の削減に向けた教職員の意識改革を図るため、他校の取組や成果を伝達する。</li> <li>・業務の効率化を図るため、職員会議等の資料のペーパーレス化や、会議の精選を行う。</li> <li>・ICT機器を効果的に活用し、生徒・保護者に対するアンケートを効率的に集計し時間短縮を図る。</li> <li>・定期テスト最終日の部活動を停止し、採点業務の時間確保を進める。</li> <li>・三者懇談会や家庭訪問時の部活動時間の短縮を行い、臨時顧問等の負担を軽減する。</li> <li>・事務職員や管理用務員が、学校行事の運営や配布物印刷等の役割を担い、教員の負担軽減を行う。</li> <li>・校務支援員、観察実験アシスタント、学びのパートナー、学生ボランティアを活用し、授業や部活動、生徒支援の充実を図るとともに教職員の負担軽減を行う。</li> <li>・部活動指導員や外部コーチを活用し、部活動指導の充実を図ると同時に、顧問の負担軽減を行う。</li> <li>・部活動ガイドラインの徹底を図り、効果的な部活動を行うと同時に、顧問の負担軽減を行う。</li> <li>・留守番電話機能を活用し、保護者に対して勤務時間の理解と業務時間の縮小を図る。</li> <li>・年休取得促進と健康増進の推進を図る。</li> </ul>
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>	<p>「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」「自己の健康管理」(教職員評価)</p> <p>「教職員の表情はイキイキしていると思いますか。」(学校関係者アンケート)</p>

### 中間評価

<b>各種指標結果</b>	<p>「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」 64%</p> <p>「自己の健康管理」 70%</p>
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の雰囲気は、風通しがよく、概ね良好な環境が維持できている。</li> <li>・働き方改革の意識が浸透しているが、メリハリのある勤務ができる教職員と、できない教職員の二極化が起きている。</li> <li>・校務支援員、部活動支援員、外部コーチ、総合育成支援員、観察実験アシスタント、学生ボランティアと様々な制度をフル活用し、生徒への手厚い対応とともに教職員の業務の軽減を図る</li> </ul>

	<p>ことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「統一閉鎖日」の取組は定着し、健康保持への教職員の意識は高まっているが、十分ではない。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部ではあるが従来と変わらない長時間の超過勤務を続ける教職員に対して働き方改革の趣旨を再度徹底する。</li> <li>・部活動の活動時間を大幅に見直し、超過勤務の削減につながる体制作りを行う。</li> <li>・ペーパーレス化や会議時間の縮小等、再度、勤務の見直しを図り、勤務状況の改善を進める。</li> <li>・仕事へのやりがいが高めるために、管理職からの労いや承認の適切な声掛けを意識的に行う。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>「教職員の表情はイキイキしていると思いますか。」(学校関係者アンケート)</p> <p>「仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起」「自己の健康管理」(教職員アンケート)</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長引く感染対策の影響により、教職員が疲弊しないようにしてもらいたい。教職員が健康で元気あることが、健全育成への第一歩である。健康保持にはこれまで以上に留意してほしい。</li> <li>・感染対策、不登校の課題等、学校側の苦労は保護者も地域も十分に理解している。その中であって、整然とした授業が行われ、生徒は学校に来るのを楽しみに思える状況が維持できている。今後も、この状態を保てるよう努力してもらいたい。</li> </ul>

最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p>「教職員の表情はイキイキしていると思いますか。」(学校関係者アンケート) 92%</p>
自己評価	<p><b>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働き方改革」を意識しながら勤務の改善を図る教職員は増えている。超過勤務の状況は概ね良好であり、改善があまり進まない教職員もいるが、その数は減少している。</li> <li>・総合育成支援員、校務支援員、部活動支援員、外部コーチ、観察実験アシスタント、学生ボランティアと様々な制度をフルに活用し、感染対策をはじめとする教職員の業務の軽減を図ることができた。今年度は、学生ボランティア、インターンシップの学生が充実しており、育成学級の支援をはじめ、教職員の負担軽減につながる存在となり活躍してくれた。</li> <li>・職員会議や職員研修を効率的に運営することができたが、学年会議や分掌会議等の複数の会議が同じに重なることがあり、勤務時間内に会議が終わらないことが度々あった。</li> <li>・部活動終了後の時間は効率的に業務を進めることが優先され、生徒の情報交換や教科会等の打合せの時間を十分確保することができなかったことが、長年続く課題である。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務 45 時間以内を目指し、より効率的に業務を進める必要がある。部活動の完全下校時間を見直しについて、運営委員会、学年会、職員会議で議論を重ね、大幅に時間を繰上げることを決定した。部活完全下校時間以外だけでなく、朝の予鈴後の活動について見直し、朝の勤務時間外の活動を精選した。</li> <li>・業務の内容を分かりやすく見える化しながら、センターサーバー内の分掌ファイルを整理し、担当者が代わっても業務の移行をスムーズに行う体制づくりを行った。</li> <li>・誰もが気軽に相談できる、助け合える雰囲気づくりを行い、風通しのいい職場環境への改善を進め、働きがいを感じる改革が進むように、運営委員会メンバー等で率先して行動する。</li> </ul>

学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働き方改革」を進め、勤務状況の改善することについては、地域、保護者も一定の理解をしている。ただ、より良い教育活動をするための改革であるので、生徒に寄り添い人間味のある関りができる体制を維持してもらいたい。</li> <li>・メンターシステムのように経験者が若手を指導する体制は有効だが、リバースマンターとして経験者も若手から学ぶ相互研修体制についても検討してもらいたい。</li> </ul>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

<b>重点目標</b>
人の心を大切にし、人権尊重の精神に富んだ生徒の育成を図る
<b>具体的な取組</b>
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。</li> <li>② 学校がいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。</li> <li>③ 年2回実施の教育相談アンケートの以下の項目に該当する生徒への聞き取り調査を行い、実態の把握をした後、適切な指導を行う。また、教職員アンケートより指導体制についての検証を行う。  「学校生活で嫌なことがある」・「友人からよくからかわれたり、嫌なことを言われたりする」  「自分のクラスは過ごしやすいと思う」・「友人関係で悩んでいることがある」(生徒アンケート)  「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導ができています」(教職員アンケート)</li> <li>④ 児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。  保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している</li> </ul>

中間評価

<b>各種指標結果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 『学校いじめ防止基本方針』を全教職員で共通理解し組織的に対応する体制は整えた。  教職員アンケート「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導」  重要度：「重要である」100%  保護者アンケート「学校は安全で安心できる環境整備がされている」  「そう思う」94%</li> <li>② いじめ対策委員会のメンバーは、学校だより等を通して生徒・家庭・地域に対して紹介した。  教育相談や懇談会を通して、「悩み事があれば、いつでも相談できる先生がいる」ことを生徒・保護者に周知した。</li> <li>③ 生徒アンケート結果より *アンケート内容は年度当初の項目から  「学校に行くのは楽しい」 82%  「クラス内で気になることがある」 17%  「自分のことを理解してくれる友達がいる」 94%  「嫌なことがあると我慢してしまうことが多い」 46%</li> <li>④ 生徒や保護者からの相談内容を共有し、組織的に対応した。  教職員アンケート「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導」</li> </ul>

実現度：よくできている 24% ,大体できている 66%

⑤ いじめ防止基本方針について、HPや学校便りを通して保護者や学校運営協議会に周知した。

自己評価

**分析（成果と課題）**

- ・マスクや社会的距離等の感染対策の影響からか、友達との関係に不安を感じている生徒が増えている。生徒の心理的影響を考慮し、生徒間の人間関係を注意深く観察した。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、生徒の変化を見逃すことなく、早期にいじめ対策委員会を中心として組織的な対応ができた。
- ・いじめアンケート結果をもとに、教職員間で情報を共有し、迅速な指導に行い、初期の段階での解決を図ることができた。また、保護者とも連携し、解決後の様子もしっかり観察することができた。
- ・いじめの認知件数はわずかであったが、SNSの不適切な使用に関する事例が課題である。

**分析を踏まえた取組の改善**

- ・いじめに対する細かな観察を怠らず、些細なトラブルもいじめにつなげないために、迅速かつ生徒の心に寄り添った指導を心掛ける。コミュニケーションの課題のある生徒や、発達に課題のある生徒が、いじめの当事者にならないように、教職員の共通理解を徹底させる。
- ・いじめの未然防止のため、全ての教育活動を通して生徒指導の三機能の視点を持ち、指導を進めていく。寛容性や共感力の醸成を重視し、自分の価値観との違いを認め、折合いをつける機会を、教科授業をはじめ、学活や道德時間の学習指導の中で実践していく。
- ・懇談会やPTA活動・学校運営協議会を通して、学校の現状を適宜伝え、課題を共有し、連携して生徒の観察や、心の育てる教育を進めていく。
- ・情報モラル教育を充実させるとともに、小学校と連携したSNSに関する保護者啓発を進める。

**（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標**

生徒アンケート：「学校に行くのは楽しい」「クラス内で気になることがある」「自分のことを理解してくれる友達がいる」「嫌なことがあると我慢してしまうことが多い」

保護者アンケート：「学校は安全で安心できる環境整備がされている」

教職員アンケート：「生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導」

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

- ・生徒の様子は、落ち着き安定しているように見えるが、観察を怠らずに小さな芽のうちに解決を図ってもらいたい。コロナ禍の影響で保護者にとって来校する機会が少なく、学校の様子が分かりづらい状況が続いているため、学校の様子を積極的に発信する必要がある。
- ・社会の不安定さが、いじめを引き起こす環境を生み出している。まずは、大人が元気に努力して生き様を示すことが肝心である。

最終評価

**（中間評価時に設定した）各種指標結果**

『学校いじめ防止基本方針』のもと、年度を通して、全教職員で組織的に対応することができた。

学校関係者評価 「子どもは安心して過ごせる環境がつけられている」

「そう思う」98%

② いじめ対策委員会において、いじめ事案の迅速な対応や、未然防止策の実践を徹底した。

これらの対応について、学校運営協議会、PTA 実行委員会の開催ごとに報告するとともに、教育相談や懇談会を通して、気軽に相談できることを生徒・保護者に周知徹底した。

- ③ 生徒アンケート結果より 「学校に行くのは楽しい」 82%  
 保護者アンケート結果より 「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」 90%  
 「子どもは仲間を大切にしたい行動ができている」 97%  
 「学校は安全で安心できる環境整備がされている」 97%

いじめ事案は発生したが、素早く適切に対応できていたことにより、安心して登校できる環境が築けている。

- ④ 生徒や保護者からの相談内容を学年、学校全体で共有し、組織的に対応できた。

自己評価

**分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題**

- ・いじめ事案の件数は多くはないが、解決まで時間のかかる案件が複数発生した。「学校いじめ防止基本方針」に基づき、早期にいじめ対策委員会を中心として組織的な対応を行ったが、学級活動を通じた集団作り等の必要性を実感した。コロナ禍による学級内の人間関係の希薄化も影響し、実際の集団作りは難しい状況が続いた。
- ・いじめ事案の指導の中で、加害と被害の立場が入れ替わることもあり、生徒、保護者の指導に困難を要することがあった。些細な事案であっても、生徒、保護者の意向を十分に汲んだ指導を行い、被害側の心情の理解を最優先に対応する力量の向上を図る必要がある。

**分析を踏まえた取組の改善**

- ・前年度の反省を生かし、コロナ禍による活動の制限がある中で、教育相談の時間や、各種アンケート調査を確実に実施し、いじめの未然防止、早期解決に努めることができた。ただ、日常の生徒観察において、生徒の人間関係の変化に気づけないことが、トラブルにつながることもあった。情報共有だけでなく、生徒の様子を観察する視点について共通理解する必要がある。
- ・いいところを褒め、よくない部分は叱る、というメリハリのある学級経営が十分できない場面が見受けられる。若手教員も増える中で、基本的な学級経営について改めて研修をする必要がある。次年度は、若手育成を目的とした自主研修を企画していきたい。

学校関係者評価

**学校関係者による意見・支援策**

- ・生徒、保護者ともに価値観や感じ方が多様化する中で、生徒自身が学校に居場所を見つけられる取組が大切である。そのためには、まずは、学校がしっかり話を聞いてくれる存在であることが必要だ。大変なことも多いと思うが、生徒や保護者と粘り強く関り続けてもらいたい。
- ・学校には、周囲と同じようにできない子どもが排除される風潮があるように思われる。ヤングケアラーや貧困家庭等の課題が山積する中で、学校が同質化することを求めず、多様性を認める場であればならない。そうすることが、いじめ問題の解決につながるのではないだろうか。